

教育研究業績書

令和5年5月1日

氏名 青柳 達也

研究分野	研究内容のキーワード	
コミュニケーション	英語学、コミュニケーション、演劇教育、異文化理解	
教育上の能力に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		
1. 佐賀大学文化教育学部非常勤講師（専門教育外国語Ⅰ）	平成 22 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日	専門教育外国語Ⅰ：英語 4 技能を活用することを目的とした英語スピーチ、英語劇、英語プレゼンテーションを実践。
2. 佐賀大学全学教育機構集中講義「身体表現入門」	平成 22 年 9 月 13 日～現在	全学教育機構「身体表現入門」：デジタル表現分野の基礎教養として必要な身体表現に関する様々なアプローチを体験し、自らの体を使った表現方法を指導にあたる。
3. 福岡大学 GAP(グローバル・アクティブ・プログラム)「英語ドラマメソッド」講師	平成 25 年 5 月 16 日～平成 27 年 11 月 20 日	GAP (Global Active Program) 「英語ドラマメソッド」：留学を前提とした短期集中型英語学習の取組の中で演劇的手法を活用し、英語と身体をコミュニケーションツールとして捉え、英語をよりリアルに表現する指導にあたる。(2 コマ x6 回)
4. 西九州大学 GCE(グローバル・コミュニケーション・イングリッシュ) 「英語ドラマメソッド」講師	平成 25 年 8 月 27 日～平成 27 年 8 月 28 日	GCE(Global Communication English) 「英語ドラマメソッド」：留学を前提とした短期集中型英語学習の取組の中で演劇的手法を活用し、英語と身体をコミュニケーションツールとして捉え、英語をよりリアルに表現する指導にあたる。(2 コマ x3 回)
5. 福岡大学 GAP(グローバル・アクティブ・プログラム)科目「Global Career Design」ゲストティーチャー	平成 28 年 7 月 7 日～令和 2 年 6 月 25 日	福岡大学 GAP(グローバル・アクティブ・プログラム) 科目「Global Career Design」 ゲストティーチャー (2 コマ x4 回、1 コマ x1 回)
6. 佐賀女子短期大学非常勤講師	平成 30 年 9 月 21 日～平成 31 年 2 月 10 日	科目「TOEIC 特講Ⅱ」「TOEIC 特講Ⅳ」では、TOEIC 試験対策に向けた英語リーディングとリスニングの指導にあたる。科目「英米文化Ⅱ」では 1970 年代～2000 年代のアメリカとイギリスの歴史と文化についての講義を実践。科目「英文作成」では英語ライティングの指導にあたる。一般教養科目「英語」では、英語 4 技能をまんべんなく網羅する内容の指導にあたる。
7. 佐賀女子短期大学特任准教授	平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日	科目「TOEIC 特講Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ」では、TOEIC 試験対策に向けた英語リーディングとリスニングの指導にあたる。科目「すぐ使える英会話基礎、応用」ではスピーキングを中心の指導にあたる。科目「英文作成」では英語ライティングの指導にあたる。科目「English Presentation」では英語のプレゼンテーションのやり方の指導にあたる。科目「よくわかる英文法基礎、応用」では英語の文法をリーディングとライティングを中心とした指導にあたる。科目「英文リーディングⅠ,Ⅱ」では英語のリーディング教材を使って多読を実践。科目「英米文化Ⅰ,Ⅱ」では 1940 年代から 2000 年代のアメリカとイギリスの歴史と文化についての講義を実践。科目「卒業研究Ⅰ,Ⅱ」では年度末の研究発表と研究論集に向けた指導にあたる。
8. 佐賀女子短期大学准教授	令和 2 年 4 月 1 日～現在	科目「すぐ使える英会話(基礎・応用)」:英会話の実践を指導。 科目「Office English」:職場で使う英語の実践を指導。 科目「Media English」:ニュースや新聞などのメディアで使われ

		る英語を指導。 科目「国際交流演習Ⅰ・Ⅱ」：国際交流に関する演習の実践。 科目「グローバルコミュニケーション」：英語を使うことに特化した集中講義にて、英語コミュニケーションを実践。 科目「身体表現Ⅰ・Ⅱ」：演劇的手法を活用した表現・コミュニケーションの演習。 科目「English Drama」：英語劇の手法による英語の指導。 科目「卒業研究」：グローバルや英語に関係することをテーマにした研究の指導。 科目「English Presentation」：英語プレゼンテーションの実践を指導。 科目「ウェブデザイン演習Ⅱ」：ウェブサイトの作成の演習、CMSにおけるアップデートについて指導。
9. 第一薬科大学看護学科非常勤講師	令和3年4月1日～現在	科目「英語」：医療英語を中心とした英文リーディングを指導。 科目「英会話」：医療英語を中心とした英会話を指導。 科目「医療英語」：医療英語をもとに論文を解説できるための基礎作りを指導。
10. 佐賀大学全学教育機構非常勤講師	令和5年4月～現在	科目「Intercultural Communication」：異文化コミュニケーションの演習をオールイングリッシュで指導。
2 作成した教科書、教材		
1. 株式会社LbE Japan	平成28年4月1日～平成30年8月31日	年間通して全国の様々な小中学・高校・大学・社会人・自治体を対象にしたグローバル人材育成教育プログラム「Global Village」を企画・開発・運営を担当し、研修で利用ワークブック教材を作成。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
1. 佐賀大学学長賞教育功績等表彰受賞（身体表現入門）	平成26年8月29日	佐賀大学全学教育機構集中講義「身体表現入門」において、学生の評価が高い授業であったことを讃える佐賀大学学長賞を受賞。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 古賀英語道場	平成20年8月1日～平成28年3月31日	小学生から大人までを対象とした英語教室の経営・指導。ネイティブスピーカー2名を雇用。年間行事として英語劇祭、英語スピーチ大会、英語カルタ大会、英語キャンプを実施。
2. 株式会社LbE Japan	平成28年4月1日～平成30年8月31日	プロダクトマネージャーとして、年間通して全国の様々な小中学・高校・大学・社会人・自治体を対象にしたグローバル人材育成教育プログラム「Global Village」を企画・開発・運営を担当。
5 その他 特になし		
職務上の実績に関する事項		
1 資格、免許		
1. レゴ®シリアスプレイ®公認ファシリテーター	平成23年1月20日～現在	デンマーク・コペンハーゲンで開催されたレゴ®シリアスプレイ®の研修トレーニングを受け、公認ファシリテーターの資格を取得。定期的に勉強会に参加、およびワークショップを実践。
2 特許等 特になし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 佐賀大学教員免許状更新講習講師（教育情報コミュニケーション学）	平成24年7月7日～令和元年5月26日	教員免許状更新講習の選択科目の一つとして開講している「教育情報コミュニケーション学」において、身体表現のワークショップを実施した。子ども園から高等学校に勤める30名程度の教員を対象に演劇的手法を活用したコミュニケーション能力育成の活動をする中で、教員自身にとっても役に立ち、彼らの今後の指導においても参考となる内容になっている。（2日間x8回）
2. 文部科学省認定佐賀大学ICT活用教育共同利用拠点	平成29年7月1日～平成31	レゴ®シリアスプレイ®の手法を活用した主に大学教員を対象に、レゴ®ブロックを使って、チームビルディング、価値観や考え方

FD/SD 研修（レゴ®シリアスプレイ®）講師	年3月31日	を表現し共有しあうコミュニケーションセミナーを実施している。（2日間x2回）
3. 佐賀県立生涯学習センターアバンセ「県民講師 基本とスキルアップ講座」「県民講師チャレンジ講座」	令和元年8月8日～令和2年2月21日	佐賀県立生涯学習センターアバンセの主催による県民講師 基本とスキルアップ講座」（1日間x6回）と「県民講師チャレンジ講座」（1日間x5回）をメイン講師として担当した。
4 その他		
1. 金城学院中学校・高等学校アメリカ語学研修	平成21年7月～令和元年7月	教育企業（株）LbEJapan の依頼により、10 日間のアメリカ語学研修の引率・運営を担当。
2. 東芝経営エントリーセミナー講師	平成 28 年 11 月～現在	教育企業（株）LbEJapan の依頼により、東芝研修センターにて、国際理解の社員研修を年に2回（2日間）担当。
3. 西南学院大学短期語学研修	平成 29 年 10 月 1 日～平成 30 年8月31日	教育企業（株）LbEJapan の委託事業として、春期・夏期の西南学院大学短期語学研修を西南学院大学国際センターと連携をして企画・運営、現地校との連絡、事前オリエンテーション実施。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
1 (著書) 1. 「就業力を育むデジタル表現技術者養成プログラム—創造的表現力を重視したアクティブ・ラーニングの実践」	共著	平成 28 年 3 月	五紘舎、4. 3. 1 節トピックス IV	佐賀大学デジタル表現技術者養成プログラムにけるアクティブラーニングの事例として、筆者が担当する科目「身体表現入門」においては、理論だけではなくコミュニケーションや表現に関するトレーニングを実施し、本プログラムの中だけではなく、社会的に役立つスキルを学生が得ることを狙っている。「演劇的手法」により演じることを学び、言葉と身体の両方をコミュニケーションのツールとして表現力を養うトレーニングを行っている。本稿では「身体表現入門」の実践事例をもとに我が国における今後の「アクティブ・ラーニング」の効果的な指導について考察している。 全 235 ページ中 p. 84-88 を執筆。
2 (学術論文) 1. 「学士課程におけるコミュニケーション教育の必要性」(寄稿)	単著	平成 27 年 3 月	リメディアル教育研究第 10 巻第 1 号	とりわけ就職時におけるコミュニケーション能力については関心が高いと言える状況の中で、高等教育におけるコミュニケーション能力の育成の取組はまだ少ない現状があり、社会のニーズに対応できていないと言わざるを得ない。日本におけるコミュニケーション教育、特に学士過程における必要性について意見を述べ、今後の取組に示唆している。 p. 44-45
2. 「大学におけるコミュニケーション能力育成に関する事例考察：特徴的取組にみられる効果性と限界性」	単著	平成 27 年 11 月	福岡大学大学院論集 47 巻第 2 号	我が国におけるコミュニケーション教育の重要性が高まる背景をかんがみ、現在、優れた実践やそれらを対象とした実証的研究の蓄積の途上にあると考えられることから、本稿では多様な個別的取組の系統的整理を試み、大学におけるコミュニケーション能力育成の特色ある事例を複数取り上げて検証し、その効果性と限界性を分析し、今後のコミュニケーション能力育成の発展へ寄与することを目的としている。 p. 33-49
3. 「アクティブ・ラーニングにおける演劇的手法の意義と役割」	共著	平成 29 年 3 月	佐賀大学教育学部附属教育実践総合センター編第 34 巻号 p. 77-89	筆者が佐賀大学「身体表現入門」において実施している、アクティブラーニングとしての効果的な事例である演劇的手法の役割と意義を示している。演劇は鑑賞するだけにとどまらず、体験活動として教育的効果がでてくるものである。アクティブラーニングの根幹となる部分は人と接してコミュニケーションをとり、お互いに伝え合い、学び合うことである。そのような状況において、学習者に必要な素地作りの場となるのが演劇的手法である。演劇的手法の中でもどのような種類の活動や教育的効果があるかを検証している。 著者：青柳 達也、角 和博 共著者とディスカッションをし、青柳が全文を執筆。 p. 77-89
4. 「教師と児童生徒の教室コミュニケーションを向上させるための教員免	共著	平成 29 年 11 月	佐賀大学教育学部附属教育実践総合セン	筆者が佐賀大学にて実施している教員免許状更新講習の中の「身体表現ワークショップにおいて、教員自身のコミュニケーション能力

許更新講習の実践」			ター編第 35 巻号	育成と生徒のコミュニケーション能力育成の活動として、演劇的手法を活用した取り組みが、どのような効果と学びを与えているかを、参加者の実施後のレポートをもとにまとめている。 著者：青柳 達也、角 和博 共著者とディスカッションをし、青柳が全文を執筆。p. 129-133
5. 「大学教育におけるレゴ R・シリアスプレイ R(LSP)の実践研究」	共著	平成 31 年 3 月	佐賀大学教育学部附属教育実践総合センター編第 37 巻号	大学の教育において、レゴ・ブロックを活用することは、アクティブ・ラーニングとして実際に現場で利用できるツールとして発展する可能性が高い。学生のコミュニケーション力だけでなく、対話することに対する自信、モチベーション、他者への興味関心を高めることができるかを検証している。 著者：青柳 達也、角 和博 共著者とディスカッションをし、青柳が全文を執筆。p. 121-126
6. 「異文化対応力を高めるグローバル人材育成の取り組みの一考察」	共著	平成 31 年 3 月	佐賀大学教育学部附属教育実践総合センター編第 37 巻号	文化的背景が異なる人々が協働し、国境や地域を超えて共存するグローバル社会がますます拡大している中で「異文化コミュニケーション」はこれまで以上に大きな重要性を持つようになってきた。現在、様々な大学で実践されているグローバル人材育成の特徴事例を考察している。 著者：青柳 達也、角 和博 共著者とディスカッションをし、青柳が全文を執筆。p. 113-119
7. 「異文化対応力測定尺度作成の試み」	共著	令和元年 9 月	グローバル人材育成教育研究第 7 巻 第 1 号	グローバル人材育成教育学会の異文化対応力育成研究専門部会として、2018 年より実施してきた異文化対応力調査のデータを分析した結果を報告した。 著者：工藤俊朗、青柳達也 共著者とディスカッションをし、工藤が 80%を執筆、青柳が 20%を執筆。p. 30-35
8. 「県民講師養成講座における自己成長と変化についての一考察」	単著	令和 2 年 3 月	佐賀大学教育実践研究 Vol. 38	佐賀県立生涯学習センターで開催された県民講師養成講座でのアンケートをもとに、参加者の成長と変化について考察した。 著者：青柳 達也、角 和博 共著者とディスカッションをし、青柳が全文を執筆。p. 141 -146
9. 「短期大学における留学生人材を活用したグローバル人材育成の取り組み」	単著	令和 3 年 3 月	佐賀女子短期大学研究紀要第 55 集	佐賀女子短期大学で担当した科目「グローバルコミュニケーション」において、留学生人材を活用したワークショップ形式の実施をアンケートをもとに考察した。p. 125-133
10. 「テレビ会議システムを用いた演劇的手法によるコミュニケーション能力育成の一考察」	共著	令和 3 年 3 月	佐賀大学教育実践研究 Vol. 39	テレビ会議システム zoom を活用した演劇的手法によるワークショップの実践を、参加者のアンケートをもとに効果を分析した。 著者：青柳達也、角 和博 共著者とディスカッションをし、青柳が全文を執筆。p. 171-177
11. 「短期大学における留学生人材を活用したグロ	単著	令和 4 年 3 月	佐賀女子短期大学研究紀要	佐賀女子短期大学にて継続して担当している科目「グローバルコミュニケーション」にお

ーバル人材育成の取り組み（2）」			第56集	いて、留学生人材を活用したワークショップ形式の実践についての現状と課題をアンケートをもとに考察した。P.97-103
12.「演劇的手法によるオンライン・ワークショップ実践の現状と課題」	共著	令和4年3月	佐賀大学芸術地域デザイン学部研究論文集第5号	コミュニケーション能力育成を目的とした演劇的手法によるオンライン・ワークショップにおける実践の現状と課題を考察した著者：青柳 達也、角 和博、中村隆敏 共著者とディスカッションをし、青柳が全文を執筆。p.91-100
13.「短期大学における留学生人材を活用したグローバル人材育成の取り組み（3）」	単著	令和5年3月	佐賀女子短期大学研究紀要第57集 Vol.2	佐賀女子短期大学で担当した科目「グローバルコミュニケーション」の考察の第三弾として、留学生人材を活用したワークショップ形式の実施において、英語で学ぶことの可能異性と限界性についてアンケートをもとに考察した。p.113-120
(学会発表) 1.「コミュニケーションを育む演劇的手法～教員免許状講習より～」	単著	平成27年3月	第2回「教師教育と演劇的手法」研究会発表	教員の資質としては必要とされているコミュニケーション能力の育成が、当たり前で習得していると考えられていたり、現場の実践の中で自然に育まれると判断されている傾向がある中で、演劇的手法によるコミュニケーション能力育成の効果を検証した。
2.「アクティブ・ラーニングにおける演劇的手法の意義と役割」	単著	平成27年3月	日本リメディアル教育学会第9回九州支部大会発表	学校教育において重要性を増してきているアクティブ・ラーニングの全体像を把握し、分類し、構造化することを試みる。特に構造化にあたっては、アクティブ・ラーニングの中でも演劇的手法に着目して有効性を示した。
3.「アクティブ・ラーニングにおける演劇的手法の可能性」	共著	平成27年3月	第4回「教師教育と演劇的手法」研究会発表	アクティブ・ラーニングにおいて最も重要である主体的に学ぶという観点を演劇的手法において、学習者がどのように実践と応用を通して学びを自分のものに行っているかを検証した。
4.「国際教育プログラムと成果測定・評価を考える」	共著	平成30年2月	グローバル人材育成教育学会第4回関西支部大会シンポジウム登壇	高等学校における国際教育プログラムに特化し、現状データや現場の先生のインタビュー調査をもとに、プログラムの成果測定・評価の妥当性を検証した。 コーディネーター：小野博（グローバル人材育成教育学会会長）、登壇者：古村由美子（長崎大学教授）、青柳達也（佐賀大学非常勤講師）、横川綾子（明治大学特任准教授）、池田佳子（関西大学教授）
5.「異文化対応力の測定と海外研修プログラムでの利用」	共著	平成30年9月	グローバル人材育成教育学会第5回九州支部大会シンポジウム登壇	異文化対応力測定に向けたテストの試作の報告をした。 小野博（グローバル人材育成教育学会会長）、登壇者：青柳達也（佐賀大学非常勤講師）、工藤俊郎（大阪体育大学准教授）、佐々木有紀（福岡大学准教授）
6.「異文化対応力の測定と海外研修プログラムの評価・参加学生の変化」	共著	平成30年10月	グローバル人材育成教育学会第6回全国大会～5周年記念～シンポジウム登壇	異文化対応力測定に向けたテストの試作と集められた調査データをもとに、分析をした内容を報告した。 コーディネーター：小野博（グローバル人材育成教育学会会長）、登壇者：古村由美子（長崎大学教授）、青柳達也（佐賀大学非常勤講師）

7. 「多読アシストシステムの教材作成方法」	共著	令和元年 8 月	グローバル人材育成教育学会第 7 回全国大会	師)、横川綾子 (明治大学特任准教授)、工藤俊郎 (大阪体育大学准教授)、佐々木有紀 (福岡大学准教授)
8. 九州支部研究会 Reading assist 研究会 「リーディング・アシスト・システム教材の開発と実践検証」	共著	令和 3 年 2 月	グローバル人材育成教育学会第 8 回全国大会・第 1 回国際遠隔会議	英語教材の開発研究において、これまでに完成させた教材の試作の内容について報告をした。佐々木有紀 (福岡大学)、青柳達也 (佐賀女子短期大学)、園田ニコル (西九州大学)、小野博 (西九州大学)
9. 「国内外におけるオンラインを活用した生涯学習による人材育成の一考察」	共著	令和 3 年 12 月	グローバル人材育成教育学会第 7 回九州支部大会	キャリア教育やリカレント教育を含めた生涯学習において、国内外におけるオンラインを活用した人材育成の事例を検証した。青柳達也 (佐賀女子短期大学)、角和博 (佐賀大学)
10. 「短期大学における留学生と日本人学生の相互交流に関する一考察」	単著	令和 5 年 2 月	グローバル人材育成教育学会中部・関西合同支部大会 (第 6 回中部支部大会/第 7 回関西支部大会)	留学生と日本人学生の交流に関する課題や必要な要素を見出し、効果的に交流を促す活動、手法、イベント等を検証した。
3 (その他) 1. 「コミュニケーション教育の実践事例：レゴ®シリアスプレイ®ワークショップ、身体表現ワークショップ」	単著	平成 27 年 9 月	マラン大学訪問	調査研究団の一員としてインドネシア国立マラン大学を訪問し、大学院生と学部生を対象にレゴ®シリアスプレイ®ワークショップ、身体表現ワークショップを実施した。
2. 「共同学習の効果を高める演劇的手法の導入」	共著	平成 29 年 9 月	初年次教育学会第 10 回大会ワークショップ	協同学習の効果を高めるために、演劇的手法を導入することが効果的であることを検証するワークショップを実施した。 著者：青柳 達也、角 和博、安永 悟 共著者と協議してワークショップの内容を決め、進行は全て青柳が行った。
3. 「レゴ®シリアスプレイ®」の手法を活用したコミュニケーションセミナー	単著	平成 29 年 11 月～平成 30 年 1 月	佐賀清和高等学校	佐賀清和高校の 2 年生の 3 クラスを対象にレゴ®シリアスプレイ®の手法を活用したコミュニケーションセミナーを実施した。普段の生活で大切にしていることを表現することで、価値観を見直す機会となった。
4. 「美術維新：身体表現ワークショップ」	単著	平成 30 年 10 月	佐賀大学地域デザイン学部	佐賀大学地域デザイン学部の学生が企画。佐賀県からの助成を受け、一般・学生を対象に実施した身体表現ワークショップを指導し、作品を構成・演出を担当した。作品はビデオ撮影をし、上映会とトークショーを実施した。
5. 「レゴ®シリアスプレイ®」の手法を活用したコミュニケーションセミナー	単著	令和元年 8 月	金城学院中学・高等学校	金城学院中学・高等学校の教員を対象とした FD 研修を実施した。この手法における自己開示と対話力アップの可能性を実感する機会となった。

6. 「アートとエンターテインメントの新しい可能性」トークライブ	共著	令和2年11月8日	佐賀県立生涯学習センターアバンセ	令和2年度佐賀県立生涯学習センターアバンセ県民カレッジの集い「アートとエンターテインメントの新しい可能性」と題し、さがのアート、エンターテインメントの現在とこれからを語り合うトークライブに登壇。 コーディネーター：富吉賢太郎（佐賀清和学園理事長）登壇者：青柳達也（演劇家）、重松恵梨子（シアターシエマ支配人）、富永ボンド（現代芸術家）、北原香菜子（薩摩琵琶演奏家）
7. 「教育講演会対談」	共著	令和3年3月27日	東明館学園高等学校・中学校	卒業生による座談会形式の後援会教育講演会において登壇。 コーディネーター：福島正（東明館教頭）登壇者：青柳達也、仁田純一（経済産業省九州経済産業局産業部産業課 課長補佐）、末崎雅美（西南女学院短期大学部保育科 学科長）、松尾尚子（JAXA 第一宇宙技術部門 衛星利用運用センター主任研究開発員）